

開 ~心 で 満 点~

二本松南小学校だより No.10
令和7年1月8日(水)
発行責任者 校長 太田 孝志

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

子どもたちの元気な声と素敵な笑顔が学校に戻ってきました。冬休み期間中、子どもたちが事件や事故に遭うことなく、安全に楽しく過ごし今日を迎えることができました。各ご家庭でご尽力、ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

3学期も子どもたちが安全に楽しく学校生活が送れるよう引き続き、学校教育へのご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

体調を整えて、力が発揮できる3学期に！

3学期は、学年のまとめと次の学年・学校への準備をする大切な学期です。子ども一人一人が毎日元気に登校し、目標に向かって十分に力を発揮し、充実した学校生活が送れるように指導・支援をしていきたいと思えます。

また、インフルエンザ等の感染症もはやってくることも予想されます。学校では、手洗い・うがい・換気などの予防対策を行っています。ご家庭でも、「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめ、お子さんの基本的な生活習慣の確立や体調管理等のご協力をよろしくお願いいたします。

「体験」とおして、育成したい力とは・・・。

「体験」とは【自分が身をもって経験すること】です。学校でも、学校内外で実際に体を使って自然や人・物などの対象物に直接かかわる体験を取り入れています。

- ・自然体験（自然や屋外での遊びやスポーツ）
- ・社会体験（親や学校の先生以外の大人との交流）
- ・生活体験（普段の生活での手伝いや掃除など）



これらの「体験」は、子どもの学力や非認知能力に良い影響を与えることが国立青少年教育振興機構の調査から、次のように報告されています。

- 自然体験や生活経験が多い子どもは「探究力」が身に付いている傾向がある。
(疑問に思ったことやできないことを「自分なりに工夫して解決しよう」とするため)
※ 探究力：自分で課題を見つけ、その解決方法を考えて情報を集めたり、分析したりして自分の考えをまとめていく力
- たくさん体験している子は「体験の幅が広い」ので、体験をもとにした意見・推論を言うなど、様々な視点からアプローチしようとするので、学習意欲も高くなり、結果として学力が高まる傾向がある。
- 体験を多く行っている子どもほど、人に対する思いやりや協調性、さらには積極性や自己肯定感が高い傾向にある。
(失敗ややる気をなくすという経験がある子どもは、他人がそのような状況になったときに共感や応援しようとする気持ちをもちやすいため。失敗や困った経験を乗り越え「がんばろう」と気持ちを切り替えられることにもつながるため。)

<体験のメリット>

- ① 学びに対する意欲や人間関係を良好に保つ意識、自尊感情といった「非認知能力」が育まれる機会が多くなる。
- ② 自分の興味や強みを発見しやすくなる。
- ③ 他者との協力やコミュニケーションを通じて、社会性が身に付きやすくなる。
- ④ 成功体験や失敗体験から、自分を客観的に見つめる力のスキルが向上する。
- ⑤ 体験から得られた知識やスキルが学習にも直接役立つ。



学校では「総合的な学習の時間」等で探究力を育む活動を重視しています。学校内だけではなく、地域にも目を向けた探究的な活動を行っています。様々な方々とのふれあいを通して、課題解決のための方法を考えて情報を収集・分析し、自分の考えをまとめる取組、友だちや地域の方と協働してよりよい方法を考え実践する取組など、子どもたちの学びが深まり広がるように進めています。また、児童会活動においても、よりよい学校生活を築くために、諸問題について話し合い、協力して解決を図る取組などを行っています。

予測不可能な時代を迎えて、その時代を生き抜かなければならない子どもたちに、「体験」とおして「たくましく生きるために必要な力（最適解を導き出す力、思考力・判断力・表現力、ともに学び合い高め合う協働性）」を育成していかなければならないと考えております。

